

「山下・水流太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

枕崎市立桜山小学校

2 学年・人数

小学3年生（入鼓）と5年生（鉦打）〔計2人〕

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

8月の夏休みに鉦打と入鼓の個人練習 山下公民館

10月1日～全体練習 山下公民館

（2）発表の日時・場所

10月28・29日 南方神社及び妙見神社奉納

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

山下・水流太鼓踊り（やました・つるたいこおどり）

（2）由来

今から約400年前（1596年～1614年頃）薩摩藩士島津義弘公が度々の出陣に，兵を鼓舞するために踊らせたものだと言い伝えられている。現在では，五穀豊穰を祝い神社に奉納している。戦時中には中断していたが，昭和24年市制祝賀の参加がきっかけとなり，復活した。

（3）構成等

踊り子約20人が，鉦打と入れ鼓を囲み，円陣を作りながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

（1）桜山校区の西鹿籠地区に伝えられ，山下公民館長が保存会の代表である。

（2）平成26年度は鉦打(桜山小5年生)・入鼓(桜山小3年生)が共に新人で必死の思いで頑張った。

（3）練習には保存会員はもちろん，公民館の役員をはじめ，女性部の皆さんの協力をいただいた。

（4）維持継承に係る費用は地域の方々の寄付や御芳志・山下・水流両公民館からの助成・枕崎市からの助成等で賄っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝承を中断させないために，地域で暮らす全ての人の協力を得ることが何よりも大切だと思う。特に，踊り子の確保が大事で，高校生を含めた青壮年の参加は必須事項である。集落内にいる青壮年の全員の踊り子参加が可能となった。大事な文化財をみんなの力で維持継承していこうという意識が盛り上がり有

難かった。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【南方神社奉納】



【南方神社奉納】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

鉦打ち・入鼓の2人は小学校のスポーツ少年団に所属し，練習や対外試合と太鼓踊りの両立が大変だった。でもその苦労にも打ち勝ち，本番の豊年祭り（ホゼまつり）がにぎやかに神社に奉納でき，地域の人々にも立派に披露できたことは，この上ない喜びであった。

また，10月29日の祭り打ち上げの反省会では，学校の担任の先生や教頭先生・校長先生からも「ほんとうによく頑張ったね」と労をねぎらっていただいた。（保護者から）

保護者の苦労も大変なものがあったが，すべての集落民の協力のおかげで大きな行事が成功し，その力で地域が発展充実し，青少年もそういう経験を体得しながら，地域の力により健全育成がなされていくように思う。これからも，この太鼓踊りの伝統文化継承と更なる地域発展に寄与したい。（保存会から）